

まとめの作り方 (担当部分 A4用紙で1, 2枚+資

項目名 12point

日時、回数 10point

2011-04-19 基礎セミナーA 第1回

担当 窪田由紀

ジェンダーって何？

氏名 10point

一般に

生物学的な (生まれながらの) 性差、性別

セックス

社会文化的な (つまり、後天的に形成された) 性差、性別

ジェンダー

テーマ

家庭、学校、社会からの種々の情報、働きかけによって形成されたもの

前置き、補足説明
が必要な場合
以下、10.5point

テキスト該当箇所 or 出典

実際の「ジェンダー」の使われ方 4つの用法

(加藤秀一 2006 知らないと恥ずかしいジェンダー入門)

必要に応じて見出しを。

見出しは 1.
(1)
1)

1 性別そのもの

男というジェンダー、女というジェンダーという言い方

書類の性別欄 セックスが多いが、ジェンダーも、

2 自分の性別が何かという意識 (ジェンダー・アイデンティティ、性自認)

客観的性別 医師が赤ちゃんの性器を見て判断

主観的性別 自分を男と考えるか、女と考えるかという主観的判断

=ジェンダー・アイデンティティ、性自認

→最近では本人が男であることを望むか、女であることを望むかが重視

性同一性障害: 生物学的性別 (セックス) と主観的性別 (ジェンダー・アイデンティティ) にず

れがある」状態 精神的苦痛があり、社会生活にも支障をきたしている状態

→性別は2つしかないのか？

教科書以外の図表は、別紙にコピーして貼付

=、≠や
→等を
用いて
わかり
やすく
表現

できるだけ体言止め
×重視される

客観的な性別ですら、

性分化のプロセス（別紙） 染色体、ホルモン、外性器、内性器 →半陰陽

主観的性別 「男にも女にもなじめない感覚を持つ人たち」の存在

3 社会文化的に作られた男女差（ジェンダー差、性差）

男女の興味関心の差、得意・不得意の差 ←ベイビーXの実験

* 性差 個々の男女の差ではなく、男性の集団の特性と女性の集団の特性の差

4 社会文化的に作られた男女別の役割（ジェンダー役割、性役割）

男性は～すべき、女性は～すべき

↓↓

男は論理的である（← 3 性差についての記述 客観的事実に基づくかどうかは別）

↓

論理的な特性を持っているのが男らしい

↓

男は（論理的思考を必要とする）指導的な役割が向いている、役割を取るべきだ（4 役割）

5 まとめ

ジェンダー概念の多様性→安易なカテゴリー化の危険性